

説明的な文章を正しく読み取れる児童の育成

— 既習事項を生かした「学び方ポイント」の活用を通して —

児童の実態

特別研修員 国語 植原芳美（小学校教諭）

受動的な読み

文章の読み方が分からない

読みの力が積み重ならない

主体的な読み

既習事項を活用して
読ませるための工夫

学びを蓄積させて
いくための工夫

手立て「学び方ポイント」の活用

既習事項の可視化・共有化

学びの蓄積を
ノートに！

前に学んだことで、
今回の学習に使える
そうなのは何かな？

黒板でも
可視化・共有化

① 課題を把握する場面

どのような既習事項を使って学習を進めていけばよいか考え、ノートに「学び方ポイント」を作成し、可視化、共有化する。

② 課題を追究する場面

「学び方ポイント」を使って、自力解決学習に取り組む。
「学び方ポイント」を根拠として話し合いを進め、考えを深めていく。
既習事項や新たな学びを加筆する。

③ 課題をまとめる場面

今回の学びを再確認したり「学び方ポイント」に加筆したりし、何を学んだかを明確化する。
副教材や次の教材を読み取る際に活用する。

これを根拠にすれば
話し合いが深まるね。

これを使えば、
次の読み取りも
正確に読み取れるな。

既習事項を活用して読んだら...

文章の読み方が分かった!

正しく読み取れた!

○三つの場面で、「学び方ポイント」を意図的に入れたことで、児童の中に文章構成や文章表現に関する関心、知識が高まった。そのことにより、既習事項を使って読もうとする視点が育ち、正しく読み取ることができた。

課題

○系統立てて、身に付けさせるべき内容を明らかにし、「学び方ポイント」で取り上げる事項の精選の必要がある。
○身に付けた力を活用し、実感することができる適切な副教材を確保する必要がある。

成果